

## グローバル・オペレーショナル・レジリエンス プログラム

### ゴールドマン・サックスのオペレーショナル・レジリエンスおよび業務継続(災害復旧を含む)プログラム

ゴールドマン・サックス・グループ(以下、当グループ)のオペレーショナル・レジリエンスフレームワークはお客様や市場、当グループに影響を与える重大な業務上の障害に対して、未然防止・対応・復旧・適応のために設計されています。

オペレーショナル・レジリエンスは、当グループの優先事項の一つであり、お客様に対するサービスを継続して提供し、またお客様の資産と、当グループの従業員および資産を、継続的に保護できる態勢を適切に確保することを目標としています。

オペレーショナル・レジリエンスフレームワークを実践するうえでの基礎となるのは、当グループの業務継続、災害復旧および危機管理プログラムです。またこれら3つのプログラムのベースにあるのは、包括的なテクノロジー障害復旧、サードパーティ・レジリエンス、施設のレジリエンスや従業員のウェルネスを含む、アセットベース・レジリエンスプログラムとなります。

#### レジリエンス・プランニング

当グループは業務継続計画とアセットベース・レジリエンスプログラムを通して、レジリエンス計画を行っております。

**業務継続プランニング**においては、グローバルかつ体系化されたアプローチを採用し、当グループの体制とコンティンジェンシープランを定めています。業務継続計画(BCPs)は当グループの各ビジネス・ユニットレベルで策定され、各業務の重要性や目標復旧時間(RTO)などの詳細も定めています。各業務に必要な資源(ディペンデント・アセット)、業務要件、一時的な措置も含む適切な業務復旧戦略も文書化しています。BCPsは定期的に見直し、更新しています。

- **アセットベース・レジリエンスプログラム**は、当グループにおけるディペンデント・アセットのレジリエンス機能の確保を重視しています。具体的には、
  - **テクノロジー障害復旧プログラム**: 障害復旧計画は、ネットワークやアプリケーション、マーケットデータやその他の共有システムを含む、中核となるテクノロジーインフラストラクチャーの復旧を図るための計画とそのテストに注力しています。当グループは障害発生後の、重要なアプリケーションやそのデータの復旧を目的とした、障害復旧計画を文書化しています。復旧期待レベルを定義するため、アプリケーションはそれぞれ適切な RTO と目標復旧時点(RPO: 時間で測定される、予期せぬデータ損失事故における許容されるデータ最大損失量)を定めています。障害復旧計画は、定められた RTO と RPO 以内でのデータとアプリケーションの復旧に要する手順を策定しています。
  - **サードパーティ・レジリエンスプログラム**: サードパーティ・レジリエンスはサードパーティ・オペレーショナル・レジリエンス・アシュアランス(TORA)とベンダー業務継続計画プログラム(VBCP)によって評価されます。これらのプログラムは、サードパーティにおける BCP プランと、業務障害発生時からの復旧能力の適切性と有効性を評価するものです。当グループの重要なサードパーティについて、サービスが受けられなくなった場合の出口戦略および代替戦略についても文書化しています。
  - **施設のレジリエンス**: ゴールドマン・サックスの施設のレジリエンスは、その施設における業務やシステムの重要性によって決まります。ビジネスのレジリエンス要件を満たすため、無停電電源装置(UPS)による保護、ユーティリティサービス・通信の多様化、バックアップ発電機の設置などのレジリエンス機能を、必要に応じて導入しています。
  - **ピープル・ウェルネス・プログラム**: 当グループは、幅広いレジリエンス・リソース・プログラムを通じて、従業員やその家族を支援しています。例えば、世界保健機関と疾病管理センターの潜在的な

パンデミックに関する情報を積極的にモニタリングしており、必要に応じて実施する手順を文書化しています。

## 危機管理

「危機管理」の対象には、当グループならびに従業員各自が重大な業務障害への対応に備えるために必要となる、ツール・研修・演習などの、コミュニケーション手順が含まれます。障害に対して効率的・効果的に対応するため、当グループでは多岐にわたり迅速に対応する態勢を確立・維持しており、そのなかには次のようなものがあります。

- 当グループの世界各地に設置された危機管理センター(CMCs)。CMCsは危機の状況を把握し、既定の危機管理手順を実行し、緊急対策を指揮します
- 業務障害発生時にその状況分析、報告、意思決定を支援するように指名・訓練された危機対応チーム
- 現地の規制当局との情報共有や対応を円滑に行い、また当グループにおける業務障害により影響を受けうる、ステークホルダーや従業員のためのコミュニケーションプラン
- 業務障害発生を、いち早く主要なステークホルダーと初動対応者に通知(障害対応中の通知も含む)できるようにするための、定期的なテスト実施手順と伝達手段
- 重要なサードパーティでの業務障害時における、当グループへの連絡手順等を含む適切な取り決め

## 業務継続計画ならびに危機管理対応訓練

当グループは、業務継続計画の実施と管理に関わる従業員にトレーニングを提供しています。トレーニングでは、業務障害時において、重要な役割を持つ従業員の役割と責任を詳しく説明します。また従業員を対象に、危機対応に関するトレーニングも実施しており、ゴールドマン・サックスの人員や施設に影響を及ぼす可能性のある事象を報告するためのリソースも用意されています。

## レジリエンス・テスト

当グループは、危機対応や復旧、業務継続を可能にするために、一定の頻度で数種類のテストを実施しています。

- **BCP リカバリー・ストラテジー・テスト**:(人、施設、システム、外部業務委託先などの)アセットを1つ以上喪失した場合、業務やプロセスの引き継ぎ、在宅勤務、代替施設などの代替的な手段で業務を遂行します。これらの代替ソリューションは、当グループの規定に従って、毎年テストを実施しています。
- **重要なビジネスサービス(IBS)の統合テスト**:当グループのIBS(または、それに相当する現地での規制要件)は、中断により顧客、市場、および当グループに著しく悪影響を及ぼしうる重要なサービスを指します。IBSに不可欠なディペンデント・アセットはマッピングされ、より高度なテストが要求されています。統合テストと呼ばれる、物理的なテストと机上テストの組合せにより、極端だが起こり得る重大なシナリオにおいて、IBSのプロセス復旧能力を評価します。
- **災害復旧テスト**:アプリケーションの復旧能力を評価するために、アプリケーションは重要度に基づき、さまざまな頻度で災害復旧テストを実施しています。
- **サードパーティ・レジリエンス・テスト**:当グループは、重要なサードパーティのテストを実施し、それらの事業継続計画の適切性と有効性、およびビジネスにおいて求められる期間内に、復旧する能力を評価します。
- **危機対応テスト**:当グループは、定期的に危機管理対応策のテストを行っています。対応策を強化し、プログラムや手順を継続的に改善する機会とすべく、机上演習や実地訓練も実施しています。また当グループのフレームワークは、演習や訓練の企画・実施において、自然災害、地政学的事象、およびその他の環境や健康への危害など、特定の場所や地域のリスク特性を加味しています。

これらのレジリエンス・テストは、前年度において当グループのポリシー要件に従って実施されており、テスト要件の遵守状況を把握し、必要に応じて適切な委員会等に報告しています。問題点が確認された場合は、その状況を適

切に把握・管理しています。

#### **お客様へ：連絡とご質問**

本書面は、当グループのオペレーショナル・レジリエンスプログラムの概要をお伝えするものです。さらにご質問がございましたら、当グループの各担当者にご連絡をいただきますようお願い申し上げます。なお、当グループの保安上支障の出かねないプログラムに関する具体的なお質問にはお答えしかねることがございます。

本概要に関連する最新情報については、こちらのウェブサイト(<http://www.goldmansachs.com/japan/business-continuity-plan>)にてご覧いただけます。

#### **最終更新: 2024年6月7日**

本文は英語の原文を翻訳したものです。本文と原文に相違がある場合には、英語の原文(<http://www.goldmansachs.com/disclosures/business-continuity.pdf>)が優先します。